



患者さんと家族の思いを紡ぐサポーター

～集中治療室(Intensive Care Unit.:ICU)での取り組み～

2020年 秋号



ICU 師長 渡邊 恵美

ICU に入室される患者さんは、急性期疾患・慢性期疾患の増悪・侵襲の大きな手術後など多岐にわたり、多くは生命の危機状態にあるといえます。

また、病状の緊急度や重症度によりご家族の面会制限を余儀なくされます。慣れない環境下での療養生活を強いられる患者さんにとって、ご家族との関わりは療養の励みや安心感を得られる唯一の「時間」だといえます。

しかし、今年は新型コロナウイルス感染症予防のため、面会制限を強化する事態となりました。

患者さんにとって最大の心理的支持者であるご家族との関わりを繋ぐ試みとして「情報交換ノート」を作成し、情報共有のツールとして活用することを考えました。

「今日の様子」「変わったこと、今後の予定」などの情報やリハビリ風景の画像を添付し、日々の療養状況や成果を家族に伝え、一方、家族からの要望や励ましを「情報交換ノート」を使って患者さんに伝えました。文字や声を通してお互いを労い思いやる気持ちは、私達の励みにもなりました。

今年、大きく様変わりした状況の中でもフィジカルディスタンスを保ちつつ、患者さんを思うご家族の気持ちに寄り添い、互いの気持ちを身近に感じて貰えるように、今後も取り組んでいきたいと思えます。



NASVA 委託病床の受け入れを通して



3N 病棟(NASVA 委託病床) 副主任 隅岡 えり

自動車事故により遷延性意識障害となった患者さんを対象とした NASVA 委託病床が 2020 年 2 月に開設されました。

ワンフロア病床でプライマリー・ナーシングの看護体制のもと、医師、リハビリ部門をはじめ多職種連携を図り、「あきらめない医療」を掲げ、日々取り組んでいます。

開設から 6 ヶ月経ち、これまでに 4 件の申込みがありました。そのうち 3 名の患者さんの訪問調査に伺い、医療スタッフとミーティングの結果、現在 2 名の患者さんを受け入れております。

入院当初は意思疎通が困難な患者さんが、徐々に声掛けによる顔きや追視などが現れ、小さな変化を見出せた瞬間が私達の喜びと活力に繋がっています。

現在は、コロナ対策による面会制限のため、直接、ご家族の表情や声を患者さんに届けることができません。電話対応が主になっていますが、遠方のご家族をどう支えるかが今後の課題といえます。

患者さんやご家族にとって、NASVA 委託病床での日々が有意義な時間であったと満足していただけるように関わっていききたいと思えます。

